

IMF、緩慢な世界景気回復を予想

ポイント① 経済成長率見通しを下方修正

6月24日発表のIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は、2020年は-4.9%と4月時点の見通しの-3.0%から大幅に下方修正されました。2021年には5.4%のプラス成長に転じると予想しているものの、4月見通しの5.8%から下方修正されました。

新型コロナウイルスの感染が拡大し、各国で経済活動を制限する措置が行なわれてきたことから、今年の世界の経済成長率は、大幅に落ち込む見通しです。経済活動の再開により景気は回復に向かうと予想されていますが、世界的には感染拡大が止まつていないことなどから、回復のペースは4月見通しより緩やかなものに留まるとの見方となりました。

ポイント② 新興国の回復が遅れる見通し

中国以外の新興国で感染拡大が続いていることなどから、新興国の経済成長率の下方修正が相対的に大きくなっています。4月見通しと比べて、新興国の景気回復が遅れるとの見方に傾いたようです。

一方、先進国全体では今年の成長率は下方修正されたものの、来年はやや上方修正されました。ただ、今年のマイナス幅の方が来年のプラス幅よりも大きく、2021年の実質GDPの水準は2019年の水準まで戻らない見通しです。

ポイント③ 國際協調の重要性を強調

IMFは医療体制の拡充や経済の回復のために、幅広い国際的な協力が必要であることを強調しています。さらに、貿易・技術摩擦の解消や、温室効果ガスの排出量削減に向けた国際協調が、新型コロナウイルスによる危機から脱した後の世界の大きな課題であるとしています。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

	2019	2020	2021
世界	2.9	-4.9 (-1.9)	5.4 (-0.4)
先進国	1.7	-8.0 (-1.9)	4.8 (0.3)
米国	2.3	-8.0 (-2.1)	4.5 (-0.2)
ユーロ圏	1.3	-10.2 (-2.7)	6.0 (1.3)
日本	0.7	-5.8 (-0.6)	2.4 (-0.6)
新興・発展途上国	3.7	-3.0 (-2.0)	5.9 (-0.7)
中国	6.1	1.0 (-0.2)	8.2 (-1.0)
インド	4.2	-4.5 (-6.4)	6.0 (-1.4)

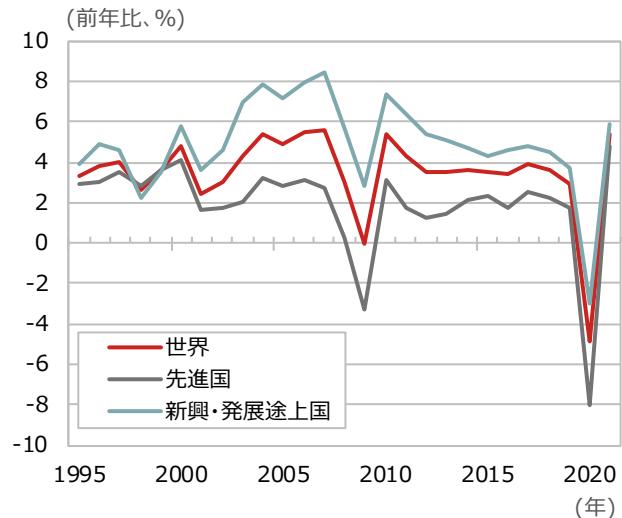
(注) 2020年以降はIMFによる予測

(注) ()内は2020年4月時点見通しからの修正幅

(出所) IMF「World Economic Outlook Update, June 2020」
より野村アセットマネジメント作成

図2：世界の実質GDP成長率

期間：1995年～2021年、年次



(注) 2020年以降はIMFによる予測

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

6月30日

7月2日

日本鉱工業生産指数、失業率（5月）

米国雇用統計（6月）